

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	伝統芸能こどもフェスティバル
事業主体 (連絡先)	伝統芸能こどもフェスティバル実行委員会 (事務局 長野市文化スポーツ振興部文化芸術課 224-7504)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,569,905 円 (支援金: 2,602,000 円)

事業内容

後継者不足に悩む中、伝統芸能をイベントとして開催することで、子どもたちの参加を促進し、伝統芸能の継承を進める。

- 日時: 令和4年10月22日、23日
- 会場: 長野市芸術館
- 内容: こどもたちによる伝統芸能のステージ発表
こどもたちへの伝統芸能の体験・指導
合同ステージ発表と事前練習
- 実行委員会・全体会議: 3/23、5/11、8/24、11/16
事業内容検討、プログラム作り



事前練習

<p>【目標・ねらい】</p> <p>①次世代への伝統芸能の継承</p> <p>②ジャンルを超えた団体交流</p> <p>③文化芸術の振興及び地域の活性化</p>



合同ステージ発表

事業効果

- ◆参加団体 23 団体、428 名
うち合同ステージ発表 67 名 (伝統芸能初体験)
- ◆来場者 2,769 名 (前年比 +782 名)
- ◆和装(着物)体験(新企画) 体験者 48 名
- ◆出演者アンケート
- 総合的に満足・やや満足 100% (前年比+6.7%)
- 主な意見
 - ・子どもも親御さんも大変喜んでくれた
 - ・貴重な演奏の場、稽古の機会となった
 - ・大舞台での演奏は良い経験となった



体験ブース

今後の取り組み

合同ステージには 67 名のこどもが参加し、イベント後も稽古を継続する子供が増えている。

引き続き伝統芸能団体が主体の実行委員会による運営を継続し、新たなコンテンツの導入なども検討しながら継続して実施していく。

※自己評価【A】

【理由】
新型コロナに配慮しつつ昨年以上に参加団体、出演者数を確保し、来場者数も昨年を上回ることができた。新企画の和装(着物)体験も好評で、参加団体の満足度も向上しており今後の発展に期待できる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	日本一の門前町大縁日
事業主体 (連絡先)	長野市 (文化スポーツ振興部文化芸術課 224-7504)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	7,226,254円 (支援金: 5,000,000円)

事業内容

善光寺御開帳期間中、市民参加による文化芸術プログラムを中心に、他のイベントとも連携しながら、災害復興の一助となるよう、にぎわいの創出を図る。

○日時：令和4年4月1日～6月26日

○場所：セントラルスクウェア、善光寺表参道
TO i GO広場、長野駅前広場 など

○内容：令和4年度実施事業（支援金対象事業）

- ・伝統芸能体験広場
- ・懐かしの名車・旧車の集い
- ・ながの高校生書道パフォーマンス
- ・eスポーツの祭典2022 in NAGANO



伝統芸能体験広場



懐かしの名車・旧車の集い



ながの高校生書道パフォーマンス



eスポーツの祭典

【目標・ねらい】
①にぎわいづくり ②市民参加

事業効果

- ◆伝統芸能体験広場 (4/3～5/29)
指導者延べ69団体291人、体験参加者1,709名
- ◆懐かしの名車・旧車の集い (4/29)
出展179台、来場者8,000人
- ◆ながの高校生書道パフォーマンス (5/5)
出場11校162人、来場者2万人
- ◆eスポーツの祭典2022 in NAGANO (5/14, 15)
ステージ出場136人、来場者5,222人

今後の取り組み

3ヶ月間で参加者約7,500人、来場者22万5千人と大きな盛り上がりを作ることができた。大縁日で実施した賑わいを継続して市の事業として実施していく。

※自己評価【A】
【理由】 感染防止安全計画に基づきコロナ対策を図りながら、ほぼ予定していた事業を実施することで、市民参加による街のにぎわいが創出できた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州郷土食フェア&表参道芸術音楽祭
事業主体 (連絡先)	長野市 (文化スポーツ振興部文化芸術課 224-7504)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,420,000円 (支援金: 1,193,000円)

事業内容

善光寺御開帳に県内外から訪れる多くの観光客の皆さんに、長野県内に伝わる伝統食を文化芸術ステージ発表と併せて満喫していただく。

○日時：令和4年6月18日(土)、19日(日)
25日(土)、26日(日)

※郷土食フェアは18日、19日のみ

○場所：セントラルスクウェア

○内 容：県内に伝わる郷土食の紹介と販売
県民による文化芸術のステージ発表



出展ブース①

- 【目標・ねらい】
- ①にぎわいづくり
 - ②市民参加
 - ③地域の魅力発信

事業効果

- ◆ 2日間の延べ数
 - ・参加市町村 11市町村
 - ・ステージ発表 48グループ、639名
(6/18, 19分は24グループ、194名)
 - ・来場者 8,360名
(6/18, 19分は4,260名)

◆善光寺御開帳にあわせて、県内市町村の協力の下、信州の郷土食と文化芸術ステージを同時に楽しんでいただいた。また、飲食ブースの設営には地元商店会に協力いただいたほか、運営には一般ボランティアにスタッフとして加わっていただき、市民協同による運営を進めることができた。



出展ブース②



ステージ発表

今後の取り組み

信州郷土食フェアは、今回が初めての開催となった。県内市町村の出展運営や市民参加による運営ノウハウを蓄積することができたため、新たなコンテンツなども検討しながら次回開催につなげていく。

※自己評価【A】

【理由】感染防止安全計画に基づきコロナ対策の徹底を図りながら、予定通りに事業を実施し、市民参加による街のにぎわい創出と信州の郷土食など地域の魅力を発信することができた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ながの高校生バンドコンテスト
事業主体 (連絡先)	長野市 (文化スポーツ振興部文化芸術課 224-7504)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,161,995 円 (支援金 : 795,000 円)

事業内容

高校生のバンド活動の推進とエネルギッシュな演奏を市民に披露することで、市民の文化芸術の振興を図る。

- 日時：令和5年3月16日(木)
- 会場：長野市芸術館アクトスペース
- 内容：高校生軽音楽バンドによるコンテスト
- 審査：音楽教諭、プロ・アマバンドなど審査員5名による審査。審査基準は総文祭に準ずる。
- 表彰：グランプリ：アクトスペース1日貸切、バンド練習室10時間券、準グランプリ・3位：バンド練習室10時間券

【目標・ねらい】

- ① 市内の高校生軽音楽バンドの活動推進
- ② 文化芸術の振興
- ③ 地域の活性化

事業効果

- ◆参加グループ 14組(前年比 +4組) 7校、65名
- ◆来場者 165名(前年比 +124名)
- ◆高校生バンド活動の推進
- ◆グランプリグループによるバンドイベント開催
- ◆芸術館バンド練習室の利用向上

今後の取り組み

参加グループが年々増加している。今後も高校バンドが目指すコンテストとなるよう継続して開催する。

今後は軽音楽部の他、様々なジャンルの文化部の発表の機会を作るよう工夫する。



コンテスト



会場の様子

※自己評価【A】

【理由】

新型コロナに配慮しつつ初めて有観客で開催できた。昨年以上に参加団体、出演者数が増え、高校生軽音楽バンドの活動促進に繋がっており、今後の発展に期待できる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	真田サミット in 松代
事業主体 (連絡先)	長野市 (長野市教育委員会 文化財課 松代文化施設等管理事務所) (026-278-2801)
事業区分	(3) 教育文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,410,000 円 (うち支援金 : 3,360,000 円)

事業内容

真田信之松代入部 400 年を記念し、1 年にわたり松代地区の小中学生とふるさと探究活動を行い、その成果を発表する真田サミット in 松代を開催した。合わせて、真田家と酒井家の末裔によるパネルディスカッション等を開催した。

- ・開催日 12 月 16 日 (金)
- ・場 所 松代文化ホール
- ・参加者 212 人 (別にオンライン参加者 30 人)
- ・参加校 松代地区 6 小学校、1 中学
- ・協力校 松代高等学校
- ・その他 桜スクエアにおいて真田節記念演武 (10 月 9 日)

事業効果

- ・シンポジウム参加人数は目標を 5%以上上回った。
(目標 140 人→実績 212 人 (発表校の生徒をふまえると 325 人で 13%以上上回った))
一方オンライン配信は目標を大きく下回った。
(目標 1,000 人→実績 33 人)
- ・施設利用者数の増加については、前年度比約 40%増となった (R3 年 4 月～12 月 56,404 人 (宝物館・真田邸・文武学校 3 館) が R4 年 4 月～12 月 92,634 人)。
- ・松代エリアの観光客数は前年比約 50%増、R3 年 4 月～12 月 227,300 人、R4 年 4 月～12 月 349,500 人

今後の取り組み

- ・本事業を通じて、児童・生徒・地域住民の世代・地域を超えた交流が促進され、ふるさとの歴史や文化に対する興味・関心を高め、ふるさと松代に対する愛着を深めることができた。
- ・こうした事業は単発のイベントではなく、継続が大切であり、2021 年度に採択された信州藩校サミット、今回の真田サミット in 松代を踏まえ、向こう 3 年、合計 5 年間さまざまなテーマで継続する。
- ・今後も松代地区に残る有用な地域資産の活用事業を継続し、地域住民、学校等の教育機関、他の地域の方と連携し、地域資産の発見、みがき上げ、活用、継承に取り組む。



【真田サミット in 松代】会場

【目標・ねらい】

- ①シンポジウム参加人数
- ②施設利用者数の増
- ③松代エリアの観光客の増

※自己評価 【A】

【理由】

- ・年間を通したさまざまな関連事業を通じて、地域の歴史文化に対する関心を深めることができた。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ベトナム人(外国人)が信濃に溶け込む ”やさしなの事業”
事業主体 (連絡先)	長野県ベトナム交流協会 (026)233-1124
事業区分	教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	753,844円 (うち支援金: 60,300円)

事業内容

長野市中心部でにほんご教室を開いているが、市南部の地域居住外国籍住民は足を運びにくい状況であった為、南部エリアの拠点として教室を設けた。

【にほんご教室】

- ・日時: 毎月第1・第3日曜日 令和4年7月～令和5年2月 AM:10:00～12:00 (全15回)
- ・場所: 篠ノ井駅前 アスペース篠ノ井
- ・内容: にほんご・ベトナム語教室及び文化交流
- ・参加者: ベトナム人・カンボジア人・ベトナム人留学生・ボランティアスタッフ



【教室の様子】

【目標・ねらい】

- ① 異文化交流
- ② 異世代間交流
- ③ 地域との繋がり
- ④ 生活相談

事業効果

- ① 長野市南部の拠点としての位置づけが出来つつある。
- ② 地元篠ノ井地域だけでなく他市町村からのボランティア、信大留学生、市内からの参加者と外国籍住民との交流が出来、異文化理解への意識が向上している。
- ③ 10代～70代と幅広い世代の参加により、様々な情報交換が出来る場所となっている。
- ④ 地元自治協議会との連携が出来、次年度は協働で企画をし、教室から外へ出かけることにより、地元住民との触れ合い、街の魅力の発信等が期待出来る。

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・地元篠ノ井から毎回ボランティアの方が参加し地域との繋がりが出来、次年度は地域との共同企画による教室運営をすることとなった。
- ・外国籍居住者への周知方法に再検討を要する。

今後の取り組み

篠ノ井自治協議会の協力を得、街巡り・篠ノ井史跡巡り、ベトナム料理教室、トラック市見学、防災教室、りんご狩等座学のみでなく、外へ出かけ直接地元住民の方々と触れ合うことで、異文化理解の機会を積極的に作っていきたい。さらに篠ノ井地域の魅力を外国籍住民に SNS 等で発信してもらうことにより、外国人観光客が増え、篠ノ井エリアへの関心が高まることが期待できる。

大人だけでなく、地元の高校生にボランティアを呼び掛けていき、若者のアイデアを取り入れていきたい。また、参加している外国籍小中学生と、地元小中学生が交流出来るように働きかけていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	文化施設が作る「リトルプレス」(小冊子)による地域間交流及び魅力発信事業
事業主体 (連絡先)	一般財団法人長野市文化芸術振興財団 長野市大字鶴賀緑町1613番地
事業区分	(3)教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,294,080円(うち支援金:1,720,000円)

事業内容

長野市芸術館(長野市)とサントミュージゼ(上田市)の2つの文化施設が連携し作り上げたリトルプレス『Knot』(ノット)を通して、ホールと街に賑わいを創出する。文化施設同士がエリアをまたいで連携をとり、文化芸術の振興とともに互いのエリアの交流人口を図るリトルプレスの制作・情報発信は、長野県内でも初の試みとも言える。

内容は、公演の紹介だけではなく、インタビューを交えてアーティストの「人」を掘り下げ、来場者がおすすめるお店や場所など「まち」を紹介する。地元の大学生に誌面作成や取材に協力いただくことで、新たな目線による広報誌とする。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①Knot で取り上げたアーティストの公演における他市からの来場者数

(長野市) 11.25%の増 / (上田市) 15.95%の増
上昇傾向にあり、一定の効果があつた。

②掲載した飲食店及び商店街に聴き取り調査した結果、「Knot をきっかけに初めて来られた方や、県外からコンサートを聴きにきた方がその帰りに立ち寄るなど、商店街に足を運ぶきっかけになった」との声をいただき、一定の成果を得られた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

複数のホールが連携してリトルプレスを作成する新たな試みとして、4年間で6冊(内1年は新型コロナウイルスの影響により発行なし)発行し、最終的には、掲載した商店街でのコンサートと掲載店舗で使用できるサービス券の掲載まで達成できた。劇場とまちをつなげる新たなコンテンツとして、一定の成果を残し、劇場はまちの一部であることを印象付けた事業であった。今後とも複数のホールが連携する事業やまちと繋がる事業を継続することで、文化の発展と賑わいの創出に寄与していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあつたが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【(左) No.5 (右) No.6】

【目標・ねらい】

- ①「Knot」を読んだことによる他市からの来場者数の増加
- ②紹介施設、店舗への公演日の売上増などの波及効果

※自己評価【B】

【理由】

実施を目指していたサービス券の付与を達成し、劇場とまちがつながる新たなコンテンツとして一定の効果が得られた。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域の史資料収集及び電子化による知的情報の蓄積と継承事業
事業主体 (連絡先)	篠ノ井歴史の会 会長 宮入正純 連絡担当者 事務局長 棚田渉 090-8813-5621 388-8011 篠ノ井布施五明 213-5
事業区分	(3)教育、文化の振興、(1)地域協働の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,481,000 円 (うち支援金 : 1,184,000 円)

事業内容

地元の史資料を収集、整理、デジタル化を行うことで、検索機能と正確性をもつ知的資産を市民へ公開、継承していくこと及び子供たちの現地学習会にこの知的資産を活かし地域を大切にすることを育て篠ノ井を好きになってもらうことを目的として活動した。

活動の要点は下記5項目

- ①活動拠点「デジタル図書館」を開設する
- ②事業を市民に知らせる広報活動
- ③地元史資料収集とデジタル化及び著作権許諾の推進
- ④出前講座等でふるさとを大切にすることを育む継承活動
- ⑤知的資産の継承のため篠ノ井市誌の編纂推進



【親子で紙芝居見る-デジタル図書館内】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①デジタル図書館の開館式を10月1日開催(60人参加)。
- ②令和4年中に11回の広報活動し、市民に認識され、結果として、史資料提供と著作権許諾につながった。
- ③史資料収集400件・著作権許諾75件(達成率107%)
- ④出前講座などの承継活動14件375人(達成率127%
内来館講座は5件で、参加者120人になった。
- ⑤市誌編纂準備委員会活動は8月から開始してきた
委員会4回(1回/月)、講演会1回実施している。

【目標・ねらい】

- ①活動拠点としてデジ図書館開設
- ②広報活動を通じ市民の協力を得る
- ③史資料収集・著作権許諾推進する
- ④出前講座などの継承活動推進
- ⑤篠ノ井市誌の編纂を開始する

※自己評価【A】

【理由】

- 1. 全ての目標・ねらいについて予想以上の結果が得られた
- 2. 何よりも市民から積極的に、支援提供があり、困難が予想された著作権の許諾も順調にのびている。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- 1. 大人・子供の出前講座を通じ継承活動を継続実施する
- 2. デジタル図書館を実際に活用する人材の拡大を図る。
関係団体の実務者、社会科の先生、高校生・大学生、郷土史の研究者への周知・招待活動
- 3. 篠ノ井地区に関する歴史講演会を開催し、知的資産の蓄積と最新情報を市誌原稿へ反映する。
- 4. 史資料収集と著作権許諾活動を拡大し、デジタル図書利用者の利便性を向上する。
- 5. 広報活動を続ける。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州くだもの歴史のまち 川中島平ウォーク2022	
事業主体	特定非営利活動法人MHOKエムホック	
(連絡先)	長野市稲里町中氷鉤994番地 キャッスルA-E	
事業区分	(3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業	
事業タイプ	ソフト	
総事業費	478,000円 (うち支援金: 310,000円)	

事業内容

信州くだもの歴史のまち 川中島平ウォーク2022を開催。参加費；一般1,500円，中学生と75歳以上500円，小学生以下無料。

①「謙信・信玄の史跡めぐり」10月16日(日)稲里町「下氷鉤第一公園」を8:30出発，12:00帰着として明桂寺・安養寺・長徳寺・来福院等の約7Km 参加者29名の他スタッフは10名。

②「松代城下町周遊コース」5Kmと健脚向け「ロングコース」15Kmの2コースを，11月6日(日)松代町「旧松代駅北側駐車場」を8:30出発。城下町周遊コースは松代城跡・文武学校・象山神社・象山地下壕・長国寺・矢澤家表門などをめぐり帰着。34名参加。ロングコースは海津(松代)城跡・妻女山展望台・勘助宮・長野南オリンピックスタジアム・川中島古戦場史跡公園(長野市立博物館)をめぐり最終15:30帰着。参加者27名。2コースの参加者合計61名 スタッフ合計20名。

③「氷鉤史跡めぐり」3月26日(日)あいにくの雨模様予報に見舞われ3日前までの予定者26名に対し，キャンセルが相次ぎ参加10名 スタッフ8名での小雨決行。出発8:20 氷鉤斗賣神社・幕張の杉・淵黙庵・川中島斗賣神社・作新記念館・諸角豊後守の墓・善導寺から戻りの7Kmを結果として少しの濡れのみで11:00帰着となりました。



【松代 妻女山展望台で】

【目標・ねらい】

- ①子どもたちから高齢者まで，体力づくりや健康増進に向けたウォーキングの普及。
- ②地元の歴史や文化にふれ，楽しみながら探索することで，将来子どもたちに定住，活躍できる故郷愛を育んでいきたい。
- ③大会の規模，エリアの計画的拡大を図り，全県的な活動と長野県を健康長寿日本一のリーダーとなることを目指したい。

事業効果

① 事業開始3年めのコロナ禍で，当初春と秋に開催予定でしたが，春大会を10月まで延期し小規模7kmコースを，11月に5km，15Km2コース同時開催及び3月に7kmコースの3回を実施。参加人員合計では100名と振るいませんでしたが，川中島平における史跡をめぐる特色あるウォーキングの体験に，閉じこもり続きだった皆様よりは今年も「コロナ禍で良く開催してくれた」と感動の言葉をいただきました。

② 健脚向けロングコースは2回目の開催経験となり，地図のみでの自由歩行者と先導者，最後尾監視者のグループで歩きたい方を分けて編成しました。後者の中には昼食後の出発時間に遅れるわがまま対応者課題が確認されました。

③ 支援金は計画的な大会規模拡大を図るため，主に大会運営機材の導入に当てました。基本アイテムは揃いつつありますので今後の発展計画に合わせ拡充させたい。

本部用拡声器，横断幕，チェックポイント用机・イス・パラソル傘等を調達しました。

※自己評価 【 B 】

【理由】

- ・リピーターの多さより，歩く，合わせて史跡をめぐるの，家族や仲間との健康増進と交流に向けてのイベントとして楽しめて頂け，特に7Km短距離コースではその定着性が感じられました。
- ・参加規模の当初計画は年間190名であったが，コロナ禍の不安等と判断されるが100名と大きく未達となりました。

今後の取り組み

コロナ禍も契機を迎えている状況にあり，情報を監視しながら安心，安全な計画や運営とします。アンケート結果より，健脚向けロングコースではその多様で貴重な情報をうまく組み込むよう改善を図って参ります。多くの皆様に楽しんで参加いただけるようアイデアを凝らし，また地元以外の県内外の皆様にも長野の川中島平をアピールできるよう普及の拡大に努めます。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	姉妹都市文化交流事業「第60回記念 須坂市民文化祭」
事業主体 (連絡先)	須坂市文化芸術協会 会長 花房多都蔵 須坂市南横町 1629 携帯 090-8729-7779
事業区分	教育及び文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,393,108円 (うち支援金:1,442,000円)

事業内容

第60回を記念して姉妹都市(三浦市・新発田市)の文化団体を招待し、市民文化祭への参加など文化交流により親睦を深める。各都市から2団体ずつの4団体が特別出演し、日本舞踊・民謡・詩吟・剣舞を披露。文化祭終了後、来賓とともに式典・交流会に出席。翌日、田中本家博物館を見学。

「第60回記念 須坂市民文化祭」

- 10月22日(土) 10:00~16:30 展示会
- 10月23日(日) 10:00~16:00 展示会・謡曲会・茶席
- 10月23日(日) 10:00~17:00 芸能音楽祭
- 10月23日(日) 18:30~20:00 式典・交流会
- 10月24日(月) 10:00~11:20 田中本家博物館

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①入場者数が対R2比35%増の約1,200人だった。
- ②姉妹都市の舞台演技を鑑賞したり、須坂市の姉妹都市について知ることが出来て良かったと会員や市民の声があった。
- ③須坂市文化芸術協会に入会したいという団体が2団体あった。また、参加したいがどうしたら良いかという問い合わせも1件あった。
- ④姉妹都市の文化団体との親睦と絆が深まった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・今回は姉妹都市(三浦市・新発田市)との文化交流だったが、コロナ感染でしばらく開催出来なかった小布施町・高山村との須高文化交流会も計画していきたい。そして3年間行われなかった地域の行事等にも参加して、地域活性化や文化芸術の向上・振興・継承のための活動を行っていきたい。なお、姉妹都市の文化団体との再会も誓った。



【新発田市民謡中田会】

【目標・ねらい】

- ① 入場者の増加
- ② 姉妹都市の文化団体との親睦
- ③ 会員の増加

※自己評価【A】

【理由】

- ・入場者35%増で目標より大幅に多かった。
- ・入会する団体が2団体あり会員増加に繋がった。
- ・姉妹都市の文化団体との親睦と絆が深まった。
- ・姉妹都市や文化祭関係事業者から感謝の言葉を頂いた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	坂城能楽伝承普及事業
事業主体 (連絡先)	坂城びんぐしの里薪能実行委員会 坂城町坂城6381
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,319,497円(うち支援金:2,293,000円)

事業内容

伝統芸能である能楽観世流謡曲及び仕舞を現代に残し、後世に継承していくため、「薪能実行委員会」を組織し、町内にある「さかきびんぐしの里公園」の屋外ステージにて、「坂城びんぐしの里薪能」を開催する。

坂城町に定着している伝統芸能である能楽観世流謡曲及び仕舞を、末永く後世に継承していき、新たな若い担い手や、運営に携わる実行委員を確保していく。能楽に興味を持ち、新たな参加を促し、能楽を学ぶ若い層を発掘し、後継者を育成することを目的とする。



【坂城びんぐしの里薪能】

【目標・ねらい】

- ① さかきびんぐしの里薪能開催
- ② 後継者の育成
- ③ 小学生能楽体験教室の実施
- ④

事業効果

「第4回坂城びんぐしの里薪能」の開催

入場者数 380名

※雨天のため、村上小学校体育館にて開催

令和5年1月に小学校能楽教室を開催

能楽師 松木隆俊先生と薪能実行委員会により、町内の3小学校へ出向き、能楽体験教室を実施した。

南条小学校…1月16日(月) 3・4時間目 45名

坂城小学校…1月16日(月) 5・6時間目 40名

村上小学校…1月17日(火) 3・4時間目 27名 参加。

子ども能楽教室…10月23日(日)開催の坂城町文化祭芸能公演にて、仕舞の発表を行ったことにより、普及啓発につながった。

※自己評価【B】

【理由】

薪能当日、直前まで屋外の開催の予定で進めていたが、午前より降り始めた雨により、体育館開催となってしまったが、多くの方に観覧に来ていただいたおかげで、生協に開催できた。

今後の取り組み

来年度以降、「子ども能楽教室」や「小学校能楽体験教室」を実施し、小学生や未就学児へ能楽の普及を図る。「第5回坂城びんぐしの里薪能」の開催に向け、新たな担い手の発掘と育成を行う。伝統芸能の後継者を育成する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	持続可能な暮らしと住まいを学び、つくる場の創出
事業主体 (連絡先)	子どもたちと未来を考える会 090-7213-8006
事業区分	主となる区分：(3)教育、文化の振興 関連する区分：(1)地域協働の推進
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	698,000円 (うち支援金：541,000円)

事業内容

本事業では、環境負荷が小さく災害にも対処できる住宅や暮らしについて学び、実践するための講座を、全4回実施した。

第1回「エネルギーとお金を無駄にしない家をつくるには？」

講師：小林憲一（株式会社ELF、株式会社十一屋）

第2回「太陽光発電システムを自分で作ってみよう！」

講師：田島俊雄（特定非営利活動法人太陽と水と緑のプロジェクト）

第3回「もしもの際の避難、そのときどうする？」

講師：須磨航（特定非営利活動法人災害共生支援機構 from）

第4回「環境にやさしい、ちょっと未来の暮らし」

講師：古木里菜（小布施町ゼロウェイスト推進員）

全体ファシリテーター：新荘直明（小布施町 SDGs 観光コーディネーター）



【第2回講座の集合写真】

【目標・ねらい】

- ① 多世代が学びあう機会の創出
- ② 2050 ゼロカーボンに向けた意識の向上と取り組みの実践
- ③ 子育て支援に関する図書館との協働

事業効果

①②④回の講座に、高校生から70代までのべ51名が参加し、年齢も背景も多様な人たちが対話しながら持続可能な暮らしと住まいについて学び合い、2050 ゼロカーボンに向けた意識を持つ機会を創出することができた。

②70Wの太陽光発電システムを4組、合計280W分制作し、うち1組を小布施町立図書館に貸し出し、残りは当会で管理して災害時に福祉施設等に貸し出すことで、小布施町の災害時のエネルギー供給にゼロカーボンな形で貢献する体制を構築することができた。

③本事業を当会と小布施町立図書館が協働して実施することで、本事業終了後も両者が連携を継続し、地域全体で子どもたちや保護者の悩みを解決に導くための情報共有を行うことを確認できた。

※自己評価【 B 】

【理由】
多世代が対話しながら2050 ゼロカーボンに向けた意識を持つ機会の創出、太陽光発電システムの制作と図書館への貸出、図書館との情報共有体制の構築ができた。

今後の取り組み

今後は、小布施町全体で子どもたちや保護者の悩みに対処し、解決に導くためのネットワークの構築を進めていきたい。そのために、小布施町立図書館と当会の2者間だけではなく、小布施町社会福祉協議会や他の民間企業・団体も含めた協働を進めたいと考えている。本事業の第3回「もしもの際の避難、そのときどうする？」に小布施町社会福祉協議会の職員2名が参加しており、本事業で制作した太陽光発電システムの災害時における活用を含めて連携を強化したい。

また、2050 ゼロカーボンに向けた取り組みについては、本事業で制作した太陽光発電システムを活用し、町民、特に子どもたちが太陽光発電に親しむ機会を引き続き創出していきたい。例えば、小布施町立図書館が今年度制作した移動図書館に太陽光発電システムを設置し、読書灯や携帯電話等の充電に活用しつつ、子どもたちの放課後や休日の居場所づくりを実施することが考えられる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別記様式第12号) (第3の8関係)

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	のじりっ子トライアスロンフェスタ
事業主体 (連絡先)	のじりっ子トライアスロンフェスタ実行委員会 長野県上水内郡信濃町柏原2692-12 TEL 026-217-2535
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくり (3) 教育・文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	2, 295, 151円 (うち支援金: 1, 594, 000円)

事業内容

- ジュニアの育成
2028年に長野県で開催される第82回国民体育大会を目標に講習会5回、記録会1回、大会1回を開催し、ジュニアの育成を図る。
- 地域の活性化
自己財源にて参加者に地域の特産品(とうもろこし)を参加賞として支給し、再度観光として訪れリピーターになっていただき、地域の活性化を図る。
- トライアスロン競技人口の増
トライアスロンの競技人口が年々減少することから「新しい大会等の実施」を計り、競技人口の増を計る。



【7月9日記録会】

【目標・ねらい】

- ①ジュニアの育成
- ②地域の活性化
- ③トライアスロン競技人口の増

事業効果

- ※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。
- ジュニアの育成
講習会計5回開催で総計65名の参加。大会等2回開催で総計59名の参加。
 - 地域の活性化
自己財源にて特産品(とうもろこし)を支給し、全国から参加されていることから、特産品のPRが出来、リピーターが増えた。
 - トライアスロン競技人口の増
コロナ禍の大会スタイルが確立できて、安心して参加できる大会となった。

※自己評価【 B 】

【理由】
コロナ感染が拡大している中で参加者は激減したが、コロナ禍の大会運営や講習会の開催スタイルが確立出来た。

今後の取り組み

- ※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。
- ジュニア育成・トライアスロン人口の増
2028長野国体まで講習会や大会を実施して、ジュニアの育成並びにトライアスロン競技人口の普及に努めます。
 - 地域の活性化
トライアスロン大会等を通じて信濃町の自然や特産品に触れていただき、選手ではなく再度観光として訪れていただく。リピーターの増加に伴う地域の活性化を図る。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	iラーニングプロジェクト事業
事業主体 (連絡先)	飯綱町 (企画課) (026-253-2512)
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業 ⑧その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,763,411 円 (うち支援金 : 1,408,000 円)

事業内容

飯綱町広報紙の第1号から14年間連載を重ね、町民に愛されてきた「飯綱今昔物語」の伝承や伝説を中心にまとめた、まんが単行本を作成する。

また、伝承や伝説は低年齢の子どもにも伝えやすい内容であり、この単行本を保育園や小・中学校の子どもたちを対象とした読み聞かせなどに活用し、飯綱町の民話を通して子どもたちの想像力を豊かにし、ふるさとを大切に育む心につなげる。



【読み聞かせの様子】
(低年齢の子どもにも伝えやすいよう単行本を基に紙芝居を作成)

事業効果

飯綱町の子育て事業では、読み聞かせに力を入れており、小・中学校での読み聞かせに飯綱町の民話を取り入れることで、郷土愛の醸成につながった。また、登場人物の気持ちを想像し、さまざまな感情を抱く中で、子どもたちの豊かな発想力の育成にもつながった。

iラーニング(学習会)参加者からは、「町の歴史が貴重なものだと考えさせられた」「子どもたちに伝えていきたい」などの感想があり、子どもから大人まで飯綱町の伝統や習慣を、まんがで親しみやすく学ぶことができた。

単行本を新聞や広報紙等で紹介したことにより、県内外へ広く町の魅力を発信することができた。

- 【目標・ねらい】
- ① 子どもたちの想像力を豊かにする
 - ② 飯綱町への郷土愛の醸成

※自己評価【 B 】

【理由】
単行本を保育園や小中学校で読み聞かせに活用したほか、大人等を対象にiラーニングを実施。iラーニングには93人が参加。ふるさとへの愛着をもち、町の魅力を後世につなぐことが期待できた。

今後の取り組み

単行本を活用したiラーニング(学習会)を継続し、これからの子育て世代に飯綱町の伝承や民話を伝えていくことで、親子でふるさとへの愛着の醸成や、それを子どもたちに伝えていく有志団体の育成につなげる。

また、作成したまんが単行本を町広報紙、町ホームページ、SNSを活用して町外にPRすることで、飯綱町の魅力を発信し飯綱町に興味を持ってもらうことで、関係人口の増加や移住定住につなげる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	飯綱のヒーロー、飯綱三郎天狗とともに和太鼓で元気を届けよう
事業主体 (連絡先)	飯綱権現太鼓 (長野県上水内郡飯綱町大字古町 710)
事業区分	(3) 教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	457,321 円 (うち支援金: 365,000 円)

事業内容

演奏活動などを通じ地域住民に元気を与えてきた飯綱権現太鼓が、飯綱山周辺地域の文化的象徴といえる「飯綱三郎天狗」を、いま一度、忠実なモチーフに根ざした「鳥型天狗」の姿で復活させ、ふるさとの歴史と文化により深く根ざした活性化活動を実施。

飯綱三郎天狗をイメージした和太鼓曲に合わせて、天狗が舞い踊る映像を制作するほか、親しみやすいキャラクターを用いた紙芝居、ウェブサイト制作、ワークショップ開催、飯綱三郎天狗フェスティバルの開催などを通じ、郷土愛を深め、地域を元気にする活動を進めた。



事業効果

- ①開催した「飯綱三郎天狗フェスティバル」では、180名の参加者があり、地域住民に元気を与え、ふるさとを大切にすることを育むきっかけづくりができた。
- ②天狗が登場する和太鼓ワークショップを通じ(3回開催、参加者160名)、子どもたちなどに地域の歴史や文化に対する興味が生まれるような活動ができた。
- ③飯綱三郎天狗を広めるために制作した、天狗&和太鼓曲や紙芝居の動画がのべ1000回以上・再生され、ウェブサイトも500件以上閲覧された。

【目標・ねらい】

- ①地域住民に鳥形の飯綱三郎天狗を周知し、飯綱地域への興味を高める。
- ②文化の共有や演奏活動などを通じ、地域の一体感を深める。

自己評価【A】

【理由】

- ・イベント・ワークショップの参加者が目標より2倍以上多かった。
- ・三郎天狗の周知や演奏活動によって郷土愛を深め、元気を与えられた。

今後の取り組み

今後は、演奏活動や制作した動画・ウェブサイト等を活用し、さらなる地域住民への周知活動に取り組む。また、地域探求や郷土に対する興味を高めることを目的とした「飯綱三郎天狗の周知をからめた和太鼓演奏・ワークショップ」を教育機関などに働きかけ展開する。すでに、動画を見た、天狗の伝承が残る他の地域からの一緒に演奏会をしたい等の問い合わせがあるなど、文化交流も進み始めている。多くの人たちを巻き込んだ三郎天狗の振興に努める。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある